

弱い地盤を強化して住まいの安心を守る

弱い地盤中にパイプ（細径鋼管）を貫入し、地盤とパイプの複合作用で地盤を強化して、沈下を防ぐ基礎地盤補強工法。パイルド・ラフト基礎工法の一つである。

■認定

- ・建築技術性能証明（GBRC 性能証明 第04-02号 改12）

【特長】

①地盤に適した設計

複合地盤補強としての設計が可能。

②残土処理が不要

産業廃棄物である残土が発生せず、現場を清潔に保てる。

③迅速な施工

戸建住宅の場合は1日で施工が完了し、養生期間を必要としないため、施工後すぐに基礎工事に着工できる。

④軟弱層が厚い地盤にも対応

自沈層（ $W_{sw} \leq 1 \text{ kN}$ ）が10m以上堆積している地盤でも適用でき、最大深さ14mまで対応可能。

⑤施工スペースの縮小化

専用施工機は2t車ベースの車両を使用する。鋼管以外に機材がないため、狭小地の施工にも対応できる。

⑥周辺環境に配慮

低振動・低騒音で近隣への影響を最小限に抑えられる。

⑦擁壁近傍でも施工可能

直径48.6mmの細径鋼管を使用するため、地盤変位を生じることなく擁壁近傍での施工が可能。



工法イメージ図



施工状況

■適用

適用地盤	粘性土地盤、砂質土地盤
適用構造物	以下の条件を全て満たす建築物 ・地上3階建て以下 ・建築物高さ13m以下 ・延べ床面積1,500㎡以下（平屋に限り3,000㎡以下）
適用基礎構造	長期設計荷重度が50kN/㎡以下の布基礎、または80kN/㎡以下のべた基礎



建築技術性能証明書

問い合わせ先

戸建住宅基礎地盤補強研究会 TEL03-3273-9876 <https://www.soil-design.co.jp>